取材・文／トライアウト　撮影／鈴木誠一

# 紅の牛
@ LAB.TRIBE

# 男・嶋本、人生初の晴れ舞台、シュウネンは、毎年じゃなくて良い。22年、蓄えた力が感動を呼んだ。

1年、5年、10年…アニバーサリーの名の下で繰り広げられるパーティは、オーナーやスタッフの感謝の気持ちとも言うべきもの。昨今では、特に京都の街場では「あぁ、今年もこの季節…」という具合に定番化していて、むしろ京都らしいイベントだ。そんな中で実は一軒、沈黙を続けていた店があった。

その店は1985年に祇園で産声を上げ、現在は5店舗を京都で展開している。オーナーである嶋本洋二さんのお人柄か、名前は図太く、無骨。その名は「うしのほね」。創業から22年、沈黙を破ってついに周年パーティを催した。「2は僕のラッキーナンバー。だから22周年の2月に初イベントをさせていただきました」と冒頭の挨拶。ラッキーナンバーって理由も何だか微笑ましくもあり…。

しかし、催事は松花堂弁当のように盛りだくさん。64kgマグロの解体ショー＆寿司2800貫・シャリ16升の大判振る舞い！さらにオーナー自ら参加したEXILEならぬ「ウシザイル」（！）のダンスショー、「まんざら」木下社長が率いる和太鼓あり。で、お腹も心も満腹になる今宵のパーティを牽引するのは、よくよく見ると「うしのほね」卒業生たちだったりする。「罵力屋」のマーキーさん、「チドリアシ」のタイチロウさん…、まるで同窓生が先生を担ぎ出したようなこの構図。決して表舞台へ登場しなかった恩師をたった一度だけ、晴れの舞台へ上げたのだ。

「ウシザイル」でヘロヘロになりながらも、22周年を「もう振り返る必要はない」と嶋本社長。実直で、ときに不器用なほど生真面目なお人柄で、夜遊びの似合わない人だから、「今日は朝まで頑張りますから、皆さんもゆっくり楽しんで、お付き合い下さい」というありふれた言葉に節目の意気を誰もが感じただろうし、惚れた社長が背中で見せた言葉を、胸に刻んだ参加者たちはなおさらだろう。

京都の「横つながり」は支え合う美徳であり、もたれ合う悪癖でもある。だがこの夜は、恩師と卒業生が見せた、ちょいと良い話。なかなかに感動的な、京都の夜のワンシーンだ。

「普段は刺身が嫌いなのて食べないのですが、今日のマクロは美味てした♪」と微笑む黒川さん（左）＆徳田さん（右）

とにかく、人だかり。通称は「しろくしら海賊団」らしい…。「マーキーさん大好きです!!」って、今日くらいうしのほね大好きって言えよ～

飲食店専門の求人誌で働いている土手下さん夫妻は、社長には何かとお世話になっているとか。「社長さんのスピーチがなんと言っても最高でした」

初っぱなからインドネシアから届いた64kgのマグロを、「罵力屋」のマーキーさんが捌く!「サバで練習してました（笑）」マーキーさん、苦戦しながらも堂々と捌ききりました!

ここまで「うしのほね」を育てたのは嶋本社長（写真中央）の泰然としたお人柄。22年の背負ったものを、8カ月の「ウシザイル」特訓で発散! 躍る嶋本社長なんて見たことない!

今宵の司会を勤めたのは、「チドリアシ（P.22で紹介）」のタイチロウさんとDJの中みつ美さん!「今日はおもろい企画、用意してまっせ〜!」

何と練習8カ月! あきれるような情熱を傾けて、「ウシザイル」を「うしのほね」＆卒業メンバーで披露。嶋本社長の機敏な動きに、会場は大爆笑!

「うしのほねは、これからも頑張りますんで、宜しくお願いします!」という、ご同業でありながら刎頸の友である「まんざら」木下社長（写真左端）の挨拶には、ジンときました

その木下社長が率いる和太鼓チーム「和魂」も祝儀に馳せ参ずの図。凛として格好いいんだこれが。メンバーは「まんざら」系の料理人が中心だったりして、組織を越えた温かさが滲む

「ウシザイル」の熱気を、ソウルフルな音楽で優しく冷ましてくれたのは、周年祝儀に駆けつけた「カラビー・ドゥーノ」のメンバーたち

うしのほねスタッフである彼女に誘われたというあひるさん（左）とおはぎさん(右)。「寿司を食べて、食べて、食べつくします。10皿は必ず食べますから!」

aさん（左）、bさん（右・ともに仮名）は「マグロの解体ショーを始めてみました！ とってもかっこよかったです♪」と微笑む美女2人組

平井さん（左）と西村さん（右）は元うしのほねスタッフ。「本日お目当てのマグロをゲットしましたよ!!」「めっちゃおいしい」